

-地域と大学を結ぶ- り え ぞ ん No.16

編集発行：武庫川女子大学 社会連携推進センター

目次

第 2 回「兵庫書写・書道フェスティバル」で、本学書道ゼミの学生が運営スタッフとして参加。「書写・書道コンクール」では書道部員 3 人が入賞	【 日本語日本文学科 】1P
第 3 回歴史文化講座が「源氏物語」をテーマに開催。歴史文化学科の一期生も聴講	【 歴史文化学科 】1P
英語グローバル学科と MEC の学生が、国際協力銀行（JBIC）大阪支店長や金沢星稜大学の学生と意見交換	【 英語グローバル学科 】2P
兵庫県立消費生活総合センターと教育学科生がコラボし、「紙せっけん」で「消費者ホットライン（188）」をアピール	【 教育学科 】2P
ボランティアサークル「MUKOnnect」キックオフミーティングを開催	【 心理・社会福祉学部 】3P
全国高等学校女子硬式野球選手権大会（丹波会場）でコンディションサポートブースを開設	【 健康・スポーツ科学部 】3P
学生のアイデアを取り入れた打出教育文化センター（芦屋市）がリニューアル。学生が制作したイメージキャラクター「うちもん」もお目見え	【 生活環境学科 】4P
実践女子大学と合同で丹波篠山市の伝統文化の記録・発信に取り組む	【 情報メディア学科 / 社会情報学科 】5P
兵庫県スポーツ協会とスポーツに特化した食育プロジェクトをスタート	【 食物栄養学科 / 健康・スポーツ科学部 】5P
高知県のパブリカと米なすを使ったレシピを学生が考案・試作	【 食創造科学部 】6P
バフチェシヒル大学（トルコ）からの建築学部の留学生が西宮市役所を表敬訪問	【 建築学部 】7P
応用音楽学科の学生と演奏学科卒業生が「YB ファブのナツフェス！」に参加	【 音楽学部 】7P
薬学部の学生延べ 132 人が 2022 年度から 2 年間のアロマセラピー教育「健康プロジェクト」に参加	【 薬学部 】7P

化粧品研究の最前線を報告する武庫川コスメティックサイエンスフォーラムが「美を極める処方研究の最前線」を開催	【 健康生命薬科学科 】 ……………8P
2024 年度「健康相談ひろば」「まちの保健室」を開催	【 看護学科 / 教育学科 】 ……………8P
学生が三重県多気町の公式観光ガイドブックの作成に参加	【 経営学科 】 ……………9P
ヒロシマ被爆体験伝承者による全国初の科目が共通教育でスタート	【 共通教育部 】 ……………9P
教育学科の吉井美奈子准教授と生活環境学科の末弘由佳理准教授が、特定非営利活動法人「放課後 NP0 アフタースクール」の教材作成に協力	【 教育学科 / 生活環境学科 】 ……………10P
将来のサステナビリティ人材を育成する産学連携プロジェクト「ローソン社に学ぶサステナビリティ：2050年のローソン店舗を構想する」がスタート	【 経営学科 / 武庫川女子大学附属高校 】 ……………10P
能登半島地震の被災地を支援する募金を被災地に贈る	【 総務委員会 / ブラウンライスパランティア 】 ……………11P
学生が取り組む子ども食堂のサポート活動が5学科と大学院にも広がる	【 日本語日本文学科 / 教育学科 / 社会福祉学科/ 生活環境学科 / 食物栄養学科/ 経営学科 】 ……………11P
産学連携プロジェクト「武庫女×日本マクドナルド サステナビリティ人材育成プロジェクト」がスタート	【 経営学科 / 共通教育部 / 武庫川女子大学附属高校 】 ……………12P
「MUKOJO 未来教育プログラム SOAR」の導入講義を実施	【 女性活躍総合研究所 】 ……………13P
「女性リーダー育成」プログラムを実施	【 女性研究リーダー育成推進センター 】 ……………13P
第1回 MUKOJO 研究ポットラックが6月28日、サイエンス・コモンズで開催	【 女性研究リーダー育成推進センター 】 ……………14P
厚生委員会の学生たちが子宮頸がんワクチン接種の啓発活動を実施	【 厚生委員会 】 ……………14P
中央図書館を活用して、西宮市立西宮東高等学校が「西宮学基礎」の探究授業を実施	【 中央図書館 】 ……………15P
附属総合ミュージアムで、2024 年度春季展 第2回所蔵絵画展「抽象と空想」を開催	【 附属総合ミュージアム 】 ……………15P
平和を願うコンサート「能登半島・ウクライナ、ガザ地区支援チャリティコンサート」を開催	【 学院 】 ……………15P
ソフトバンク株式会社との産学連携プロジェクト「ふるさと納税返礼品作成による地方創生事業」がスタート	【 学院 】 ……………16P

持続可能な社会の実現に向け、武庫川女子大学はソフトバンク株式会社と産学連携協を締結	【 学院 】16P
西宮市内の中学2年生が「トライやる・ウィーク」で大学の職場を体験	【 学院 】17P
鳴尾ふれあいイベント 2024 学生実行委員会がスタート	【 学院 】17P
高大連携活動による地域活性化の実現に向け、学校法人武庫川学院は SAP ジャパン株式会社と包括連携に関する協定を締結	【 学院 】18P
宮城県議会建設企業委員会の議員団が武庫女ステーションキャンパスを視察	【 学院 】19P

-地域と大学を結ぶ- りえぞん No. 16

編集発行：武庫川女子大学 社会連携推進センター

充実する本学の地域連携活動

本学では、社会連携の活動が次第に数を増し、また継続的な活動も行われています。新しい活動の中には学部の垣根を越えた取り組みも見られます。その中の際立った活動の概要を以下に紹介します。

【日本語日本文学科】

第2回「兵庫書写・書道フェスティバル」で、本学書道ゼミの学生が運営スタッフとして参加。「書写・書道コンクール」では書道部員3人が入賞



「第2回兵庫書写・書道フェスティバル」(NP0 法人兵庫書写・書道教育協会主催)が6月9日、23日の2日間、神戸市中央区の「デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)」で開催され、本学書道研究室・平田ゼミの学生6人が、初開催となった昨年に続き運営スタッフとして参加した。今大会には、本学教授を務めた経験を持つ盛山正仁文部科学大臣も来場し、書写書道教育の実践を通じた貴重な学びの場となった。

参加したゼミ生のうち、1人は学生スタッフのリーダーとして司会などを務め、他の学生も受付や保護者対応、会場案内のほか、高校生のパフォーマンスや子どもたちが参加した書道体験ワークショップのサポートなどに従事した。

また、同フェスティバルの中心となる企画「書写・書道コンクール」には、小学生から大学生まで多くの出品があり、本学からは書道部の3人(うち書道ゼミ1人)が入賞し、作品が展示された。

◇本学からの入賞者(敬称略)

神戸新聞社賞：除本真理(日本語日本文学科4年)

優秀賞：大坪涼那(日本語日本文学科3年、書道ゼミ)

優秀賞：村下友風(生活環境学科3年)



運営スタッフとして参加した書道研究室・平田ゼミの学生



「書写・書道コンクール」作品展示

【歴史文化学科】

第3回歴史文化講座が「源氏物語」をテーマに開催。歴史文化学科の一期生も聴講



第3回歴史文化講座「映像文化と『源氏物語』～映画の中の「車争い」～」が5月11日、中央キャンパスのメディアホールで開かれ、約130人が参加した。今年4月に開設した歴史文化学科の一期生も聴講し、メモを取りながら熱心に聞いていた。

学科開設後、初開催となる今回のテーマは、大河ドラマ「光る君へ」で話題の「源氏物語」。1000年

の時を超えて様々なメディアで繰り返し描かれているこの作品を、滋賀県立大学教授の京樂真帆子さんが読み解いた。京樂さんは源氏物語の中で、乗り物として登場する「牛車」に注目。牛車の中にも高級車から大衆車まで様々なタイプがあり、牛車を通して身分や社会規範が見てとれると伝えたうえで、1961年公開の映画「新源氏物語」に描かれた「車争い」を例に、“見どころ”を解説した。

歴史文化学科1年の北村優季さんは「牛車の特徴から身分がわかるのが面白かったです。百人一首に出てくる牛車の絵を思い出し、興味深く聞きました」と話していた。



講演会に参加した歴史文化学科1期生



講師の滋賀県立大学教授 京樂真帆子さん

【 英語グローバル学科 】

英語グローバル学科と MEC の学生が、国際協力銀行（JBIC）大阪支店長や金沢星稜大学の学生と意見交換



6月14日、国際ビジネス・国際協力ゼミ（細野健二教授）のゼミ生、ボランティア団体（MEC：Mukogawa English Community）の学生と指導する小野薫里講師が、国際協力銀行の鈴木俊行 執行役員

大阪支店長および金沢星稜大学経済学部 大重斉 教授ならびにそのゼミ生たちと、幅広いテーマについて意見交換を行った。

本学の学生たちは、武庫川女子大学の特徴、アメリカ分校での留学や異文化体験、ゼミにおけるビジネス英語、異文化コミュニケーションおよびグローバル人材に関する学びなどを発表。

金沢星稜大学の学生たちは、石川県の魅力、国際交流や海外研修をはじめ、大学の特色と学び、学長へのインタビューの模様、能登半島地震からの復興への取り組みなどを発表した。

鈴木支店長は、国内外でビジネスや国際協力に携わってきた経験に触れながら、ビジネス英語や国際理解、企業のビジネス支援などについて話し、両大学の学生たちの活発な質問に答えた。また、キャリア形成などについてもアドバイスした。



国際協力銀行の鈴木俊行 執行役員 大阪支店長と国際ビジネス・国際協力ゼミ（細野健二教授）、ボランティア団体 MEC

【 教育学科 】

兵庫県立消費生活総合センターと教育学科生がコラボし、「紙せっけん」で「消費者ホットライン（188）」をアピール



教育学科の学生と兵庫県立消費生活総合センターが協同して、消費者トラブル防止を呼び掛けるグッズづくりに取り組み、消費者ホットラインの「188」を訴求する紙石けんを作成した。「紙せっけん」でクリーンに！188でスッキリと！と合言葉をデザイン。3000個作り、若者を中心に配布する予定である。県から教育学科へのグッズ贈呈式が3月19日に学校教育館で行われ、提案者の今田光咲さん（当時、教育学科1年）と、当日卒業式を迎えた4年生の学生らが受け取った。

制作したのは教育学科「家庭科内容論」の履修生254人と吉井ゼミ（吉井美奈子准教授）の4年生9人。同センターでは、若い世代が消費者トラブルに

巻き込まれないよう、ホットラインの存在を広く知ってもらいたいと考え、日ごろから交流のある吉井准教授に協力を依頼。授業で「消費生活相談の現状」について紹介し、環境に優しい素材等で啓発グッズを作ってもらいたいと呼びかけた。

履修生たちが考えた 111 件の提案の中から、履修生の投票や吉井ゼミ生、センターとの協議により、今田さんの「紙せっけん」デザインが選ばれた。

紙石けんは、コロナ禍を経験した若い世代が手洗いなどの衛生対策に関心が高く、小さくて軽いため、「常備しやすく衛生的。災害時にも役立つ」と高評価。ケースは紙、包装袋は生分解性プラスチックを使用して、環境に配慮した。



センターから教育学科へのグッズ贈呈式の様子



制作した「紙せっけん」

【 心理・社会福祉学部 】 ボランティアサークル「MUKOnnect」キックオフミーティングを開催



MUKOnnect の 3 年生が主体となりキックオフミーティングを開催した。

高校生のころからボランティアを経験している学生や、これから始めたい学生など 1 年生から 4 年生まで 32 名が出席。

尼崎市・尼崎市社会福祉協議会・尼崎市保護司会の方も参加、ワールドカフェ形式で「ボランティア」についてディスカッションを行った。「多文化のボランティアをしてみたい」「障害のボランティアが少ない」「子どもとかわりたい」などいろいろな意見が交わされた。



ワールドカフェ形式で行われたディスカッションの様子

【 健康・スポーツ科学部 】 全国高等学校女子硬式野球選手権大会（丹波会場）でコンディションサポートブースを開設



武庫川女子大学が大会パートナーとして支援する第 28 回全国高等学校女子硬式野球大会（主催：全国高等学校女子硬式野球連盟 / 丹波市）の準決勝までが 7 月 20 日から 28 日、丹波市と淡路市で行われ、健康・スポーツ科学部の中堀ゼミが、大会期間中、丹波会場でコンディションサポートブースを開設した。

2021 年度に阪神甲子園球場で高校女子硬式野球大会の決勝戦が実現して以来、本学は「女子の甲子園」を応援しており、昨年は大会パートナーに名を連ねている。また丹波市と本学が包括連携協定を締結していることから、今回のブース開設が実現した。ブースではアスレティックトレーナー資格を持つ中堀千香子准教授と本学卒業生のトレーナーが常駐しメディカルサポートをする一方で、健康・スポーツ科学部の学生が熱中症の啓発や救護活動、またスポーツにおける女性の健康管理について理解を

広めようとアスリート向けの生理用品の紹介や啓発パネルを作成し展示を行った。

学生たちは試合を終えた選手たちに脱水チェックを呼びかけ、試合中の水不足に対する指導や、熱疲労による体調不良者へのバイタル評価などを実践し、連日の猛暑の中、精いっぱいプレーを行う選手たちのパフォーマンスを支える活動を通じて、女性アスリートの健康課題の解決や女性にとって快適なスポーツ大会を作り上げる方法についての探求の場として活用した。



丹波会場のコンディションサポートブース

【生活環境学科】

学生のアイデアを取り入れた打出教育文化センター（芦屋市）がリニューアル。学生が制作したイメージキャラクター「うちもん」もお目見え



生活環境学科の学生たちのアイデアを取り入れた芦屋市の打出教育文化センター「うちぶん」と打出

公園が4月1日、リニューアルオープン。オープニングイベントで、学生がデザインしたイメージキャラクター「うちもん」や、リニューアルを目指して取り組んだ学生たちの活動記録を展示した。

通称「おさる公園」と呼ばれる打出公園と、打出教育文化センター「うちぶん」を芦屋市が一体として再整備する計画にあたり、生活環境学科まちづくりコースでは、「フィールドデザイン演習Ⅲ」（2022年度前期）の授業で、『うちぶん×ムコジョ「みんなであつろう！まちのいばしょ」』プロジェクトを立ち上げた。リニューアルする「うちぶん」が「あらゆる世代の人にとっての居場所」となることを目標に、共用エリアや貸室の再整備に向けたアイデアを出し合い、2回の市民ワークショップと参加型イベントを通して、芦屋市に対して5つの提案を行った。また、八束伶奈さん（当時、生活環境学科2年）が打出の小槌と「猿の檻のある公園」として親しまれた打出公園の伝承を取り入れたイメージキャラクター「うちもん」をデザインした。

提案の中から実現したアイデアは、①シェアキッチンの導入（災害時の非常食づくりや食の教育を通じた多世代交流の推進）②イメージキャラクター「うちもん」を活用したPR③貸室や図書館の利用ルールの変更（本を館外でも閲覧可能にしたり、飲食を一部可能にしたり、柔軟なルールに変更）④打出公園の伝承“猿の檻”を継承するギャラリーの設置⑤打出公園に飛び出し注意の看板設置。

授業を担当した伊丹康二准教授は「学生が、多くの市民や関係者と話し合いながら練り上げた提案を、芦屋市が、一部条例を改正してまで実現いただいたことに感謝しています。新しくなった「うちぶん」が、これまで以上に多くの地域の皆様に愛され、地域の交流拠点として発展することを願っています」と話した。



「うちもん」が描かれた飛び出し注意の看板

【 情報メディア学科 / 社会情報学科 】

実践女子大学と合同で丹波篠山市の伝統文化の記録・発信に取り組む



情報メディア学科大森ゼミの学生たちが丹波篠山市で郷土色や地域の祭礼を記録し、発信するプロジェクトに実践女子大学とともに取り組んでいる。

地域の高齢化、過疎化の進展に伴い祭事の担い手不足により祭礼が簡素化されていく中、祭事を継承するための取り組みが求められる。プロジェクトでは、祭事を継承するため、中世や江戸時代から続く丹波篠山市の祭礼や行事での振舞食を調査・記録するとともに、持続可能な継承の仕組みを構築。農村地域の食の系譜の文化的価値について若い世代を中心に国内外の理解を広げることを目指す。

武庫川女子大学と包括連携協定を締結する実践女子大学が、関西圏で活動するため武庫川女子大学に協力を求め、大森ゼミが合同プロジェクトを提案。大森ゼミの学生たちはまず、丹波篠山市の人たちに郷土食についての聞き取り調査を行い、6月2日には地域で食と健康に関する取り組みを続けている丹波篠山市いずみ会から郷土食を実際に作ってもらって記録した。

また、6月3日には大森ゼミの学生10人と実践女子大学の学生4人が参加して、篠山春日神社秋祭保存会の話聞き、実際に祭礼で使われる山鉦を見学した。



郷土食を記録する様子

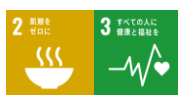


大森ゼミの学生と実践女子大学の学生

学部横断事業

【 食物栄養学科 / 健康・スポーツ科学科 】

兵庫県スポーツ協会とスポーツに特化した食育プロジェクトをスタート



兵庫県スポーツ協会と武庫川女子大学は、食を通してアスリートのコンディション維持やパフォーマンス向上をはかる食育プロジェクトをスタートした。水泳部に所属する学生アスリート15人が被験者となり、食物栄養学科の教員と学生が考案したアスリート向けメニューを半年間、食べ続ける。水泳部の学生らは健康・スポーツ科学科の田嶋恭江教授の指導のもと、練習や大会出場を続け、定期的に体調や競技成績にどのような影響があるかを調べる。

今回は食物栄養学科の教員らと小林研究室（小林知未准教授）の学生4人が、20歳前後のアスリートに必要なエネルギーと栄養素を備えた献立を作成。兵庫県スポーツ協会が、献立に沿った冷凍弁当を発注し、昼食は15人全員に提供、夕食は下宿生5人に提供する。

こうした食事がアスリートのコンディションにどのように影響するかを調べるため、被験者はHRV

（心拍変動）を測定する手首装着型のウェアラブルデバイスを装着。HRVの変動で交感神経と副交感神経のバランスを観察するほか、朝食など提供される以外の食事を写真で記録する。また、月1回、練習後の午後5時に体組成やヘモグロビン濃度、骨密度を測定する。

兵庫県スポーツ協会では「開発したメニューが、疲労回復やパフォーマンス向上につながる事が分

かれば、一般の人用にアレンジして給食の献立に活かしたり、県が行う健康づくりの支援、『食の健康協力店』として参加・登録していただいている飲食店やお弁当の販売店で提供することも考えたい。いずれはレトルト食品での販売や非常食にも展開できれば」としている。



お弁当を食べる水泳部の学生



この日のメニューは、枝豆ごはん、たらの甘酢あんかけ、ブロッコリーとゆで卵のごま和え、里芋となすの味噌煮込み、大学芋

【食創造科学科】 高知県のパプリカと米なすを使ったレシピを学生が考案・試作



食創造科学科の1年生が履修する「食品産業論実習Ⅰ」で学生たちが高知県産のパプリカと米なすを使ったレシピづくりに取り組み、6月21日、選抜された4つのレシピを学生たちが食考房で試作した。また、7月5日には神戸市中央卸売市場本場の料理教室「魚果菜（ととかな）塾」で学生たちが、料理教室の受講者にレシピのプレゼンテーションと試食会を行った。

食創造科学科は2021年3月に神戸市中央卸売市場本場と事業連携協定を締結しており、「食品産業論実習」や「インターンシップ」の実習先としても協力を得ている。同市場に多くの野菜を出荷している高知県から毎年、同学科に「特産品を題材にレシピを考えてほしい」と依頼があり、今年のお題は3色の「パプリカ」と大ぶりの「米なす」となった。1年生75人がいずれかを素材に使ったレシピを提案し、学科教員が審査、米なす2品、パプリカ2品の計4品を選抜した。

21日は選抜された4品を、発案者を中心に3～4人がチームになって調理した。「カレー香るパプリカサンド」を試作したチームは、玉ねぎのみじん切りと豚ミンチを炒めてカレー粉で味付けしたものと、茹でた3色のパプリカを食パンでサンド。色鮮やかな見た目とカレーの風味で新しさを出した。

米なすと大福という、意外な組み合わせに挑戦したチームも。なすをサイコロ状に小さく切ってごま油で炒め、味噌、醤油、砂糖、しょうがで味付けしたものをあんこと混ぜ、もちに包んだ「なす大福」を考案した菊地紗耶さんは「キウイの大福を作ったことがあり、なすとの組み合わせを思いつきました。甘味が少なめで、おかずにもなる味だと思います」と話した。



選抜されたレシピを試作する学生



試食会を行う学生

【 建築学部 】

バフチェシヒル大学（トルコ）からの建築学部 の留学生が西宮市役所を表敬訪問



バフチェシヒル大学（トルコ）から、本学建築学部
に短期留学中の学生 8 人が 7 月 11 日、西宮市役
所を表敬訪問し、石井登志郎市長と懇談した。

留学生たちは、自己紹介を兼ねてトルコの中のそ
れぞれの出身地の説明を行い、建築をはじめとして
自然、食べ物、スポーツなど、トルコ各地の魅力
を紹介。石井市長は留学生たちを歓迎するとともに、
西宮市の特長を説明した。活発に質疑が交わされ、
有意義な国際交流の機会となった。

武庫川女子大学とバフチェシヒル大学は一般交流
協定を締結し、2009 年から交換留学を行っている。
西宮市役所への訪問は 2010 年から始まり、コロナ
禍を経て 5 年ぶりに訪問が実現した。



バフチェシヒル大学の留学生と石井登志郎市長

【 音楽学部 】

応用音楽学科の学生と演奏学科卒業生が「YB ファブのナツフェス！」に参加



「YB ファブのナツフェス！」が 7 月 14 日、兵庫
県養父市のやぶ市民交流広場で開催され、応用音楽
学科 4 年生と演奏学科の卒業生が参加した。

応用音楽学科の学生は音楽イベントの企画立案か
ら準備、実施までを学べる「音楽活用実習」を履修
しており、その一環で企画・協力として参加した。
学生たちはかわいいデザインで簡単に演奏できる電
子楽器であるオタマトーンの魅力を知ってもらうこ

とを目的に「オタマトーン体験」を企画・実施。ま
た、子どもたちを中心にコンサートドレスを試着す
ることで音楽の世界に入るきっかけにしてもらおう
と「コンサートドレス試着会」を行った。さらに、
「YABU コレクション SHOW CASE LIVE 2024!」の司
会・進行などを務め、学生たちは様々な場面で活躍
した。

「YABU コレクション SHOW CASE LIVE 2024!」で
は演奏学科卒業生の日本民謡歌手で兵庫県播磨町ふ
るさと PR 大使でもある岡部祐希さんが独演した。
軽妙なトークを交えながら地元兵庫県に伝わる民謡
をはじめ、様々な民謡やポップスなども披露。会場
も民謡にかけ声で参加する場面もみられた。



「オタマトーン体験」会場 / 演奏学科卒業生岡部祐希さん

【 薬学部 】

薬学部の学生延べ 132 人が 2022 年度から 2 年 間のアロマセラピー教育「健康アロマプロジェ クト」に参加



薬学部では、2022 年から 2 年間、薬学科・健康生
命薬科学科の希望学生を対象に「健康アロマプロジ
ェクト」と題したアロマセラピー教育を実施した。

本プロジェクトでは、「(株) MIWAIKEHATA」と
「ベガファーマ (株)」が運営する「くるみ薬局」
の AEAJ アロマセラピーインストラクター有資格者
が薬学部特任教授として講師役を務めた。

1 年目のテーマはウェルビーイング。特に精油が
直接的に働きかけうる主観的ウェルビーイングや医
療の形が変化しつつある現在の状況等を、アロマテ
ラピーとの関わりの中で学んだ。2 年目はそれぞ
れの精油を用いて顧客層を考慮した香りの商品化を目

指して調香し、その成果を文化祭や第6回武庫女スマイルフェスで発表した。

薬学部は、2021年8月2日に締結したベガファーマ(株)との連携・協力協定に続き、2022年1月11日にはアロマ化粧品ブランドの先駆けである(株)MIWAIKEHATAと臨床教育等に関する連携・協力協定を締結している。両社との相互連携の上、薬物だけではなく予防・未病に関わる幅広い専門知識をもつ人材を養成している。



精油を調香する学生

【健康生命薬科学科】

化粧品研究の最前線を報告する武庫川コスメティックサイエンスフォーラムが「美を極める処方研究の最前線」を開催



第3回武庫川コスメティックサイエンスフォーラムが3月8日武庫川女子大学薬学部で開催された。

武庫川女子大学薬学部健康生命薬科学科は、全国でも珍しい化粧品科学研究室を有し、化粧品の新しい処方に関する基礎研究、皮膚や毛髪生理に関する研究、OEMメーカーと共同で、本学オリジナル化粧品「MUKOism」の開発に取り組んでいる。

武庫川コスメティックサイエンスフォーラムは、本学学生、地域の人々、化粧品メーカーの研究者ら

に向けて、最新研究の共有と発展を目的に2021年から毎年行っており、3回目の今回は「美を極める処方研究の最前線」をテーマに、コロイド科学、メイクアップ研究、洗浄研究、スキンケア研究、ボディケア研究の最新の研究成果を大学や化粧品メーカーの研究者5名が報告した。フォーラムには学生や化粧品メーカーの研究者ら320人が参加し、熱心に聴講していた。



研究成果を報告した5名の研究者



フォーラムの前には「キャリアトーク」を実施。フォーラムの講師らと学生たちがキャリア形成について話した

学部横断事業

【看護学科 / 教育学科】

2024年度「健康相談ひろば」「まちの保健室」を開催



看護学科では、地域住民の健康の保持増進及び日頃の健康づくりなどに関する意識調査のため、地域貢献活動、教育活動の一環として「健康相談ひろば」や「まちの保健室」を開催している。体調にちょっとした不安があるにもかかわらず受診できていなかった人の受診するきっかけになったり、子ども連れの人が保健師に子育てに関する相談をしたりと、開催日には多くの参加者を得ている。

心身の健康、子育て、生活習慣病、介護等の様々な不安や悩み、健康に関する相談に看護師、保健師、助産師の資格を持つ本学看護学科教員が担当しており、地域住民の健康な生活の一助となるよう本年度も継続している。

「健康相談ひろば」では、健康相談、健康指標（血圧など）の測定、子育て相談・乳幼児の計測等を学内の施設で行っている。子育て相談・乳幼児の計測には、看護学科の教員に加え、教育学科の教員も参加している。今年度は、「子育て相談」と「健康相談（乳幼児からご高齢の方まで対象）」の2つを実施。（第1回目を6月26日に実施）

「まちの保健室」は、「病院に行くほどでもないけど気がかりなことがある、そんな時に気軽に立ち寄ってみませんか。」をキャッチフレーズに、全国各地の看護協会が様々な機関と提携して行っている事業。看護学科は兵庫県看護協会と提携し、ららぽーと甲子園で心や身体についての様々な気がかりなどを、看護職に気軽に相談することができる場と機能を提供している。（第1回目を8月7日に実施）



ららぽーと甲子園で実施した「まちの保健室」の様子

【 経営学科 】

学生が三重県多気町の公式観光ガイドブックの作成に参加



経営学科谷口ゼミ（谷口浩二助教）の学生が作成に参加した三重県多気町の公式観光ガイドブック「だから 多気にきた！」（vol.3）が発刊された。

本学と多気町は2023年9月、地域づくり、教育・文化・産業の振興、人材育成などで相互に連携し、地域社会の発展や教育研究の向上に寄与することを目的に、包括連携に関する協定を締結。

谷口ゼミでは包括連携協定以降、ふるさと納税返礼品の開発やふるさと納税カタログ表紙作成、獣害の現況調査などを実施しているが、多気町公式観光ガイドブックの作成にゼミ生32人が関わり、多気町の観光振興の一助となれる活動もスタート。

「だから 多気にきた！」（vol.3）は、20ページ。東京ドーム24個分の広大な敷地にホテル、薬草湯、産直市場、飲食店舗などからなる大型商業リゾート施設「VISON（ヴィソン）」や町のおすすめポイントなどを学生たちが紹介している。

多気町の担当者は、「町の公式観光ガイドブック制作に関わってくださった学生のみなさんには、こちらの意向を的確に把握し、急なお願いにも快く迅速にご対応いただきました。そのおかげで、大変魅力的なガイドが完成しました。このガイドにより、町の魅力が少しでも多くの方に届けられたらと思います」と話した。



三重県多気町公式観光ガイドブック「だから 多気にきた！」

【 共通教育部 】

ヒロシマ被爆体験伝承者による全国初の科目が共通教育でスタート



広島市の被爆者から直接体験を聞き、次代に受け継ぐ伝承者として認定された本学卒業生・小国美弥子さんが講師を務める科目「ヒロシマ 被爆体験伝承者の挑戦」（前後期各15回）が共通教育科目でスタートした。

広島市が認定する被爆体験伝承者は現在約200人いるが、大学で被爆体験伝承をテーマに科目を提供するケースは初めて。4月15日に行われた初回授業

では、新聞やテレビの取材が入り、関心の高さをうかがわせた。約 100 人が履修し、小国さんは伝承者になった経緯や、被爆体験を伝授された証言者について紹介した。授業を通し、履修者一人ひとりが「身近なことを調べ、伝える」ことを考え、最終的に「残すべきもの」をテーマにレポートにまとめる。小国さんは「被爆体験者が亡くなる中、生の声を聞き、託された者として体験者の思いを伝え、学生一人ひとりが自分にとっての“受け継ぐ”意味を考える授業にしたい」と話している。



講師を務める小国美弥子さん

学部横断事業

【教育学科 / 生活環境学科】

教育学科の吉井美奈子准教授と生活環境学科の末弘由佳理准教授が、特定非営利活動法人「放課後 NPO アフタースクール」の教材作成に協力



特定非営利活動法人「放課後 NPO アフタースクール」(本部・東京都文京区) が 4 月 30 日に作成した家庭科や裁縫の学びを補助する教材「ソーイングチャレンジ プロジェクト ミッションガイド」に、本学の吉井美奈子教育学科准教授と末弘由佳理生活環境学科准教授が合同で作成しているイラストや動画が活用された。

「放課後 NPO アフタースクール」は、安全で豊かな放課後を日本全国で実現するため、学校施設を活用した放課後の居場所「アフタースクール」の運営のほか、企業・自治体と連携して、全国の放課後の居場所における環境整備や人材育成の支援、体験機会創出等に取り組んでいる。

吉井准教授は、「本団体は、子どもたちが主体的に過ごせる放課後づくりに取り組んでおり、本学教

員が作成した教材が役立った事例となりました。今後も協力・連携をしていく予定です」と話している。



作成協力した教材

高大連携

【経営学科 / 武庫川女子大学附属高校】

将来のサステナビリティ人材を育成する産学連携プロジェクト「ローソン社に学ぶサステナビリティ：2050年のローソン店舗を構想する」がスタート



武庫川女子大学が株式会社ローソン(以下、「ローソン」と連携し、将来のサステナビリティ人材を育成する産学連携プロジェクト「ローソン社に学ぶサステナビリティ：2050年のローソン店舗を構想する」がスタートした。

プロジェクトは、ローソン社員から店舗開発手法などを学んだ後、店舗出店を考える地方自治体のヒアリング調査を実施して地域課題を明らかにし、その課題を解決し得る店舗を構想してローソンに提案するという企画で、本学学生のほか、武庫川女子大学附属高校、兵庫県立西宮今津高校、兵庫県立洲本実業高校の生徒が参加している。

プロジェクトの第一段階となる講義とワークショップが、6月5日に行われ、ローソン近畿カンパニー近畿エリアサポート部 マネジャーの阿部浩一さんら社員6人が、ローソンのサステナビリティの取り組み、事業概要、店舗開発などについて説明。この後、学生、生徒はグループに分かれて「出店計画～未来のローソン」をテーマにワークショップを行い、グループごとに店舗を考える地域、選んだ理由などの検討内容を発表した。

今後は、店舗の企画、調査の手法などについて講義を受け、夏休み期間中の8月から9月にかけてローソンから指定された地方自治体担当者の協力のもとで、「地域フィールドワーク」を実施。各自治体が抱える課題を調査し、地域に必要なローソンの店舗を構想し、年内中に店舗構想をまとめてローソンに提案を行う計画だ。なお、「地域フィールドワーク」では、北海道の自治体（北広島市、北斗市）のオンライン講義や現地研修も予定している。



講義を行うローソン社員と経営学科谷口助教



ワークショップを行う学生と高校生たち

【 総務委員会 / ブラウンライスボランティア 】 能登半島地震の被災地を支援する募金を被災地に贈る



今年1月1日に発生した能登半島地震の被災地を支援しようと武庫川女子大学の学生たちが集めてきた募金を、学友会の総務委員会とブラウンライスボランティアのメンバーが3月13日、日本赤十字社を通じて被災地に贈った。

募金活動は、本学の学生と教職員を対象に総務委員会とブラウンライスボランティアが共同で実施。「被災者の方々を少しでも支援したい」という強い

思いから、「まずは募金活動を」と1月10日からスタートさせた。

学生たちは、朝の登学・出勤時や昼休みなどに募金の呼びかけをし、各キャンパスに募金箱を設置して支援を募ってきた。また、2月17日、18日にらぼーと甲子園で実施した「第6回武庫女スマイルフェス」でも募金活動を行い、多くの方々から支援をいただいた。

この日、募金の集計を行い、総額38万7372円を「日赤令和6年度能登半島地震災害義援金」に振り込んだ。能登半島地震の被災地支援の募金活動は今後も続けていく予定である。



募金の集計を行った学生

学部横断事業

【 日本語日本文学科 / 教育学科 / 社会福祉学科
/ 生活環境学科 / 食物栄養学科 / 経営学科 】
学生が取り組む子ども食堂のサポート活動が5
学科と大学院にも広がる



尼崎市元浜町の子ども食堂「モコモコ倶楽部」の運営を、2018年から学生たちが学部を超えてサポートしている。今年度からは、さらに大庄北生涯学習プラザの子ども食堂にも参加。昨年度まで日本語日本文学科、教育学科、食物栄養学科が中心となっていたが、今年度は、社会福祉学科、生活環境学科及び経営学科の学生や大学院生も加わり、多様な学生の連携がさらに広がりを見せている。

食物栄養学科の学生がデザインしたピンクのポロシャツも完成。5、6月に行った子ども食堂での活動では、おそろいのポロシャツ姿の学生たちが、サンドイッチやおにぎりを作ったり、食事の時間までそれぞれの時間を過ごす子どもたちの様子を見守った

り、子どもたちの「放課後の居場所」がより心地よくなるよう、協力して活動している。



サンドイッチの具材を用意する学生たち



子供と遊ぶ学生の様子

学部横断事業 高大連携

【 経営学科 / 共通教育部 / 武庫川女子大学附属
高校 】

産学連携プロジェクト「武庫女×日本マクドナルド サステナビリティ人材育成プロジェクト」がスタート



武庫川女子大学と日本マクドナルドの産学連携プロジェクト「武庫女×日本マクドナルド サステナビリティ人材育成プロジェクト」がスタートした。

サステナビリティについてマクドナルドは、「安心でおいしいお食事を」（品質の見える化、衛生管理、持続可能な食材の調達）「地球環境のために」

（脱炭素、脱プラスチック、廃棄物削減・リサイクル）「地域の仲間にサポートを」（ドナルド・マクドナルド・ハウス支援、キッズスポーツ支援、教育支援、地域貢献活動）「働きがいすべての人に」（人権の尊重、ダイバシティ、エクイティ&インクルージョン、ハンバーガー大学）の4つの領域で重点的に取り組んでいる。

プロジェクトは、マクドナルドが行っているサステナビリティの取り組みについて学び、新たなチャリティ活動の提案を行うもので、本学学生のほか、武庫川女子大学附属高校、兵庫県立西宮今津高校、兵庫県立洲本実業高校の生徒が参加している。

プロジェクトのスタートとなる7月24日には、日本マクドナルド、ドナルド・マクドナルド・ハウス財団の講師による授業が本学中央キャンパスで行われ、マクドナルドのサステナビリティの取り組み、子どもの治療に付き添う家族のための滞在施設ドナルド・マクドナルド・ハウスを通じた難病を持つ子どもとその家族の支援、ドナルド・マクドナルド・ハウスなどの支援を目的にした「青いマックの日」開催などのチャリティ活動について、講義を受けた。

今後は、ドナルド・マクドナルド・ハウス神戸（神戸市中央区）でのボランティア体験やマクドナルド店舗でマネジメント手法などを学び、10月20日にはマクドナルドの各店舗で行われる世界的チャリティ「青いマックの日」に参加。これらの活動に参加した学生、生徒が12月、本学、武庫川女子大学附属高校、西宮今津高校、洲本実業高校のチームごとに、それぞれ検討したチャリティ活動の提案をマクドナルドに行う予定だ。

プロジェクトを進める経営学科の谷口浩二助教は、「日本マクドナルドの協力のもと、経営学科の実践学習としてスタートし、3年目を迎えました。本年度は経営学科の講義として160人、全学部生対象の共通教育科目として100人が受講、そして、高大連携講義として附属高校から35人の生徒と兵庫県立の2つの高校から数十人の生徒が受講してください、総受講者は300人を超えています。一連の活動を通じて、目標と現実の差が問題であり、その問題を解決するために何ができるのかを考える機会に

してもらえればと考えています」と話した。



7月24日第1回講義の様子

【女性活躍総合研究所】 「MUKOJO 未来教育プログラム SOAR」の導入講義を実施



2022年度よりスタートした「MUKOJO 未来教育プログラム SOAR」の導入講義が全新生を対象に、4月5日、中央キャンパス公江記念講堂で行われた。

女性を取り巻く現状や課題を学生たちに知ってほしいと女性活躍総合研究所が主催した本プログラムは、MUKOGAWA COMPASS が掲げる「自ら考え、動く」女性の育成を目指す。講義冒頭で、女性活躍総合研究所所長を務める高橋享子教授は、「SOAR」は武庫川女子大学独自の基盤教育であることを伝え、「SOARを通し、『気づき』、『自分らしさ』、そして『将来の自分』を考える機会にしてほしい」と呼びかけた。

講義は、教育学科の中村明美教授、経営学科の高橋千枝子教授、共通教育部の山本晶子教授がそれぞれジェンダー、キャリアデザイン、ライフプランの視点から行った。



女性活躍総合研究所所長 高橋享子教授。SOAR 導入講義を行った

【女性研究リーダー育成推進センター】 ・「女性リーダー育成」プログラムを実施



女性研究リーダー育成推進センターが「女性研究者のためのリーダー育成研修（全4回）」を3月4日～15日に開催し、本学の全教職員、大学院生（修士課程・博士課程 男女共学）延べ251人がオンラインや対面で受講した。

令和5年度「文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」のプログラムの一環。ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）は、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果を創出するため、女性研究者のワークライフバランスに配慮した研究環境の整備や復職支援、積極登用に向けた取組み等を支援するもので、武庫川女子大学は今年度、私立大学として唯一、選定された。

第1回のテーマは「アサーティブコミュニケーション」。自分のコミュニケーションによって働きやすい環境を整え、仕事をスムーズに進めていくことを目的に、アサーティブコミュニケーションの基本となる考え方、聴き方、伝え方を習得した。第2回は「ハラスメント対策」をテーマにハラスメントにならないコミュニケーションについて考え、第3回は1、2回の内容を踏まえ、リーダーシップを多方面から考え、リーダーとしての役割や能力の理解だけにとどまらず、自分の強みを活かしたマネジメントへの気づきや、リーダー職への意欲を高めた。最終回は「異文化理解」。固定観念にとらわれずに異文化を捉え、その特徴を理解して多様性を受容するマインドについて考えた。



研修の様子

・第1回 MUKOJO 研究ポットラックが6月28日、サイエンス・コモンズで開催



第1回 MUKOJO 研究ポットラックが6月28日、中央キャンパス研究所棟1階サイエンス・コモンズで開催され、本学教職員をはじめ、大学院生や企業関係者など計19人が参加した。

「MUKOJO 研究ポットラック」は研究者同士がそれぞれの研究を共有することで、仲間と出会い新しい研究を育てる場となることを目的に開かれている。

第1回のテーマは「女性のウェルビーイングを考えよう」。本学経営学科の高橋千枝子教授と生活環境学科の竹本由美子准教授が話題提供し、女性を取り巻く様々な課題について考える機会となった。

話題提供では、高橋教授が女性特有の疾患に注目した研究や生理用品の開発など、Z世代の女性のニーズに応える製品をゼミ生とともに開発していることを紹介。「二十歳前後の女性をターゲットにした研究ができることが魅力」と述べた。また、竹本准教授は、エアコンの快適温度の違いや冷え性、着圧ソックスの効果など、多岐にわたる男性と女性の生理的・身体的特徴の違いに関する研究を紹介し、

「女性のウェルビーイングについて女子大だから発信できるものがあるはず」と語った。

その後の参加者を交えたディスカッションでは、「女子大だからできること」、「武庫女から発信できること」が話し合われ、健康診断を活用した大規模調査による学生の健康管理に関する研究など様々なアイデアが出た。今後、学内共同研究として立ち上げられるよう引き続き検討を行う。



経営学科の高橋千枝子教授と生活環境学科の竹本由美子准教授

【厚生委員会】

厚生委員会の学生たちが子宮頸がんワクチン接種の啓発活動を実施



子宮頸がんワクチン（HPV ワクチン）の接種を推奨するため、各学科の副幹事長で構成する厚生委員会の学生21人が7月16日～19日まで中央キャンパスで啓発活動を行った。

学生たちは啓発ポスターを制作し、中央キャンパスの18か所に掲示したり、アプリのプッシュ通知に画像を表示したり。16日から19日までは、学内放送をするとともに、昼休みと4限終了後に正門前やアゼリア前で特製せんべい400個を配布してワクチン接種を呼びかけた。

厚生委員会委員長の室宮梨乃さん（心理・社会福祉学科3年）は「ワクチン接種の意義を周知し、学生の意識を変えたいと思い実施しました。お菓子を受け取った学生の中には、健康サポートセンターに詳細を聞きに行く人もいて、微力ながら活動の効果があつたと感じています」と話した。



アゼリア前で特製せんべいを配布



「無料接種は2024年9月まで」「子宮頸がんワクチン」と焼き付けられた特製せんべい。外袋のQRコードを読み取ると、詳しい情報をYouTubeで見ることができる

高大連携

【中央図書館】

中央図書館を活用して、西宮市立西宮東高等学校が「西宮学基礎」の探究授業を実施



中央図書館では、西宮市内在住および西宮市の中学校・高校に在籍している生徒を対象に「オープン・ライブラリー」を実施しており、対象となる中学生・高校生は中央図書館で自学自習をすることができます。この取り組みからさらに図書館の活用度を高めたいと、昨年度から西宮市立西宮東高等学校の授業が本学中央図書館で行われている。

6月18日、中央図書館2階グローバル・スタジオに集合した約40人の同校生徒は、図書館スタッフから蔵書検索の基本と書架での本の並び方などの説明を受けた後、各自のタブレット端末でキーワード検索を開始。検索結果をもとに選んだ本を読んでメモを取ったり、グループ内で情報を交換したりして、今後の授業に向けて情報を集め整理を進めた。

今回「情報収集・整理分析」した内容は、西宮市の「子育て」や「福祉」の特徴・現状・課題をふまえて「よりよい西宮」を実現するための政策提言を考えるために活用されることとなる。



中央図書館で授業を受ける西宮東高校の生徒たち

【附属総合ミュージアム】

附属総合ミュージアムで、2024年度春季展第2回所蔵絵画展「抽象と空想」を開催



附属総合ミュージアムで2024年度春季展第2回所蔵絵画展「抽象と空想」が開催された。学院が

所蔵する絵画の中から「抽象画」と「シュールレアリスム」をテーマに13点をピックアップ。うち11点が初展示。生活環境学科の森本真准教授が作品の展示、選定、展示計画などをキュレーションし、主に昭和期に活躍した画家12人の作品を出展した。

近くに住む来場者の女性は「色彩がきれい。小さい絵も拡大されて見やすいです」と一つ一つの作品を丁寧に鑑賞していた。



2024年度春季展第2回所蔵絵画展「抽象と空想」

【学院】

・平和を願うコンサート「能登半島・ウクライナ、ガザ地区支援チャリティコンサート」を開催



第84回平和を願うコンサート「能登半島・ウクライナ、ガザ地区支援チャリティコンサート」（主催：アフガンコンサート委員会（阪井和夫代表）、共催：武庫川女子大学、後援：兵庫県合唱連盟、女性指揮者の会）が4月21日、武庫川女子大学公江記念講堂で開催され、大阪、兵庫の小中高など12団体が平和を願って歌や演奏を披露した。

平和を願うコンサートは2001年のアメリカ同時多発テロをきっかけに、世界中で紛争や戦争が多発し、難民となって苦しむ子どもたちを音楽の力で支援しようと、アフガンコンサート委員会が2002年から開催。84回目の今回は能登半島地震や、ロシアによる侵略が続くウクライナ、イスラエルによる空爆で人道状況が悪化しているパレスチナ・ガザ地区の復興を支援しようと企画し、武庫川女子大学が会場提供などで協力した。

武庫川女子大学からは附属中学校・高等学校のコーラス部、オーケストラ部が出演し、ミュージカル風の合唱やディズニーの楽曲の演奏などで観客を魅了した。司会も附属高校の放送部が務めた。

会場では生徒たちが募金箱を手に支援を呼び掛けた。集まった募金は日本赤十字社を通じて、支援する各地域に届けられる。



武庫川女子大学附属中学校・高等学校オーケストラ部

・ソフトバンク株式会社との産学連携プロジェクト「ふるさと納税返礼品作成による地方創生事業」がスタート



武庫川女子大学は、ソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」）が3月28日に発足させた全国の大学などと連携して社会課題の解決に取り組むコンソーシアム「ソフトバンク社会貢献プログラム産学連携プロジェクト」に参画し、同社との産学連携プロジェクト「ふるさと納税返礼品作成による地方創生事業」をスタートさせた。

ソフトバンクとの産学連携プロジェクトでは、政府が最重要戦略の一つとして掲げている「地域創生（地方創生）」事業について、産学官の連携を促進して地域社会の課題解決を目指す。

まずは、AIを駆使したふるさと納税返礼品開発に学生たちが取り組み、地域課題の解決につなげていく。学生たちはソフトバンクからサステナビリティや生成AIの活用について学び、ふるさと納税返礼品に力を入れている三重県多気町などでフィールドワークを行って商品開発に取り組み、地元の自治体、高校、企業と連携して、返礼品の完成（製品化）を目指す。

4月24日には、第1段階の第一回目の授業「ソフトバンクのSDGs（地域貢献）」「生成AI活用入門」

が、本学中央キャンパスで行われ、経営学科の学生らが、講師の西村智秀さん（ソフトバンク CSR 本部）の講義を受けた。

「ソフトバンク社のSDGs（地域貢献）」の講義では、西村さんは同社のSDGsの取り組みを解説した後、「持続的な社会の発展と企業の持続的な発展に努めていきたい。みなさんは、日本国内はもとより、世界各地で起きているさまざまな課題に目を向けて、ぜひ、自分たちができることを少しずつでいいので、SDGsに対する取り組みを行っていただきたいと思います」と学生に呼びかけた。



第1回目授業「ソフトバンクのSDGs（地域貢献）」

・持続可能な社会の実現に向け、武庫川女子大学はソフトバンク株式会社と産学連携協定を締結



武庫川女子大学はソフトバンク株式会社（以下、「ソフトバンク」）と、持続可能な社会の実現に向けて、SDGsの推進、地方創生、地域社会の発展及び人材育成に寄与することを目的に、産学連携に関する協定を5月31日に締結した。

武庫川女子大学は、2024年3月にソフトバンクが発足させた全国の大学などと連携して社会課題の解決に取り組むコンソーシアム「ソフトバンク社会貢献プログラム 産学連携プロジェクト」に参画している。

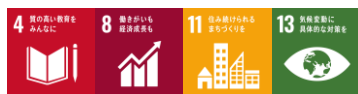
締結に際し、池田本部長は「私たちは地方創生を社会貢献の大きなテーマと位置付けています。地域で重要な役割を果たしている大学と連携し、地域の課題解決と人材育成を推進して、その成果が世の中に伝わることを期待しています」と話した。

また、瀬口和義学長は「この連携を通して IT やデジタルに強い学生、地方創生に関心の高い学生が増えることを期待しています。来年4月に開設を予定する環境共生学部をはじめ、多くの学部学科を有する総合大学の知の宝と学生のマンパワー、女子学生の感性を大いに活かし、ともに地域貢献に努めていきたい」と話した。



ソフトバンクコーポレート統括 CSR 本部池田昌人本部長と瀬口和義学長

・西宮市内の中学2年生が「トライやる・ウィーク」で大学の職場を体験



中学生が職業体験をする「トライやる・ウィーク」が5月20日から24日の間、本学中央キャンパスで行われ、附属図書館、事業部（学内売店・食堂）、社会連携推進センターの3つの部署で西宮市内の中学2年生が大学の職場を体験した。

附属図書館では、上甲子園中学校の生徒3人がカウンターで大学生に本を貸し出したり、返却された本を書架に戻したりして図書館の仕事を体験。本の装備・修理も行い、「和綴じ」の習得のため、紙に和紙の表紙を付けたノートを作成した。

本の展示企画にも取り組んだ。テーマを決めて本を選び、見やすく展示。図書館のスタッフの前で本を選んだ理由とともに発表した。

社会連携推進センターで職場体験したのは、浜甲子園中学校の2人の生徒。大学教育と自治体・地域や産業界など社会をつなぐ社会連携の仕事について学び、本学の社会貢献・連携活動の実践例をもとに、SDGsの掲げる17の目標に当てはまるものを考えるワークなどを行った。また、大学の近隣地域における防災活動や防災意識の向上に関する業務を体験するため、1月に発生した能登半島地震に関する

インターネット上の記事を収集。「震災関連死を減らすこと」をテーマに資料をまとめ、5月24日、社会連携推進センターのスタッフと浜甲子園中学校の先生の前で、生徒がプレゼンテーションを行った。全プログラム終了後、2人の生徒には大坪社会連携推進センター長からプログラムの修了証が手渡された。

事業部では、5月23日と24日の2日間、鳴尾中学校の生徒2人を受け入れた。生徒たちはブックセンターやコンビニエンスストアで品出しやレジでの接客を体験。事業部売店ではポップ制作や商品陳列などに取り組んだ。



プログラム修了証を受け取る浜甲子園中学校の生徒



上甲子園中学校生徒による本の展示企画

・鳴尾ふれあいイベント 2024 学生実行委員会 がスタート



「鳴尾ふれあいイベント」の中心となる学生実行委員会の第1回ミーティング（オリエンテーショ

ン) が6月10日、武庫女ステーションキャンパスのレクチャールームで行われた。

「鳴尾ふれあいイベント」は2022、2023年春にも開催されており、今年は10月27日に開催。鳴尾地域の活性化に取り組む「鳴尾エリアマネジメント連絡会」が学生実行委員会とともに企画・運営する地域交流イベントである。

「鳴尾エリアマネジメント連絡会」からの呼びかけで集まったのは、本学生22人、関西学院大学生3人、大手前大学生1人、和歌山大学生1人、園田学園女子大学生4人の計31人の実行委員会へ参加を希望する学生たち。鳴尾地域を盛り上げるため、多くの大学から予想以上のメンバーが集まった。

ミーティングでは昨年の開催内容の共有、2024年度の連絡方法の確認などを行い、最後に学生メンバーの自己紹介やチーム分け、役割の確認をした。自己紹介では、このイベントにかける学生の思いを語り、これからの4か月半の元気ある活動を大いに予感させるスタートとなった。



鳴尾ふれあいイベント 2024 学生実行委員

高大連携

・高大連携活動による地域活性化の実現に向け、学校法人武庫川学院は SAP ジャパン株式会社と包括連携に関する協定を締結



学校法人武庫川学院は、SAP ジャパン株式会社（以下、SAP ジャパン）と、SDGsの推進、地方創生、地域社会の発展及び人材育成に寄与することを目的に、包括連携に関する協定を7月5日に締結した。

SAP はドイツに本社を置くヨーロッパ最大のソフトウェア会社。SAP ジャパンはCSR 活動として、地方創生、次世代教育、災害復興支援を実施している。

協定締結に先立ち、本学院と SAP ジャパンは、大学と附属高校による高大連携活動の一環として、経営学科の学生と附属高校の生徒が共に、SAP 提供のデジタルシンキングやAI を活用し、兵庫県明石市と神戸市垂水区にまたがる明舞団地の活性化に向けた取り組みを始めている。

協定締結式では、SAP ジャパン 鈴木洋史代表取締役社長と本学院 大河原量理事長が協定書を取り交わし、今後の連携活動への期待を語った。

鈴木社長は、「大学、高等学校等との幅広い連携を見据え、学校法人と協定を締結できることは光栄です。SAP のミッションは Help the world run better and improve people's life（世界をよりよく、人々の暮らしを豊かにする）です。学生や生徒の皆様には、SAP の持つテクノロジーを活用して社会課題の解決に取り組んでいただきたいと思います」と挨拶。

本学院を代表し、瀬口和義学長は「SAP のシステム活用により、今般の明舞団地の課題解決に向け、兵庫県を巻き込んで地域の活性化、発展に寄与していきたいと考えています。また本学は総合大学として多様な学びがあり、この連携活動とともにデジタル人材の育成にも期待しています」と述べた。

意見交換では学生や社員の自発的な行動を生み出す仕掛け、キャリア意識形成、学校法人の基幹システムにまで話題が上がった。

大河原理事長は、「社会の変化やテクノロジーの進展により、これまで見えてこなかった新しいビジネスが生まれています。こうした新しいビジネスの場で活躍できるような人材を育成し続けたいと考えています。SAP が推進する女性のライフステージに応じた課題の具体化とその解決の方向性は、学生たちのキャリアイメージのロールモデルとなります。そのような機会をさらに得ることを目指しています」と期待を込めた。

今回の包括連携協定の締結により、本学院と SAP ジャパンは、教育、研究、地域貢献など様々な分野において更なる連携を深め、持続可能な社会の実現に向けて貢献していくことを目指す。



SAP ジャパン 鈴木代表取締役社長と大河原理事長

・宮城県議会建設企業委員会の議員団が武庫女ステーションキャンパスを視察



鉄道の高架下の利活用について検討している宮城県議会建設企業委員会の議員 10 人と県土木部や企業局の職員らが 7 月 11 日、武庫女ステーションキャンパスを視察した。鉄道会社が高架下を開発し、民間に貸し出す例はあるものの、大学が主体となって高架下に施設を作る例は極めて珍しいことから、活用状況を実際に見ようと訪れた。

議員団は武庫女ステーションキャンパスのレクチャールームで、同キャンパスの設計に携わった三好庸隆生活環境学部長から施設の概要や利用状況、高架下に大学のサテライトを作ることになった経緯などの説明を受けた後、高架下のキャンパスを見学。ガラス張りの南面から利用者の様子を眺めたり、施設の構造を確かめたりしながら熱心に見て回った。

見学後、活発に質疑応答が行われ、議員からは「地域に子どもたちの居場所づくりを進めるうえで、駅のこうした場が結節点になりうると可能性を感じました」「駅の橋脚をうまくデザインに取り入れている」などの感想が寄せられた。



高架下のキャンパスを見学する議員団



三好庸隆・生活環境学部長によるキャンパスの説明

本稿の記事は本学 WEB サイトの NEWS 及び学科オリジナル HP をもとに作成しています。写真はすべて本学 WEB サイト掲載済のものです。

ご意見・ご質問等は、本館 5 階 社会連携推進課まで
担当：西垣(6213)

E-mail: shakai@mukogawa-u.ac.jp